

湖西市新型インフルエンザ等対策行動計画

平成26年3月

湖 西 市

【目次】

第1章	総論	1
1	新型インフルエンザ等対策特別措置法の制定	1
2	湖西市行動計画の作成	1
3	対象とする感染症	2
第2章	新型インフルエンザ等対策の実施に関する基本的な方針	3
1	新型インフルエンザ等対策の目的及び基本的な戦略	3
2	新型インフルエンザ等対策の基本的考え方	4
3	新型インフルエンザ等対策実施上の留意点	6
4	新型インフルエンザ等発生時の被害想定等	7
5	対策推進のための役割分担	10
6	市行動計画の主要6項目	13
(1)	実施体制	13
(2)	情報収集・提供・共有	16
(3)	予防・まん延防止	18
(4)	予防接種	18
(5)	医療	20
(6)	市民生活及び市民経済の安定の確保	20
7	発生段階	21
第3章	各段階における対策	24
1	未発生期	24
2	海外発生期	28
3	国内発生早期	31
4	国内感染期	36
5	小康期	41

第1章 総論

1 新型インフルエンザ等対策特別措置法の制定

新型インフルエンザは、毎年流行を繰り返してきたインフルエンザウイルスとウイルスの抗原性が大きく異なる新型のウイルスが出現することにより、およそ10年から40年の周期で発生している。ほとんどの人が新型のウイルスに対する免疫を獲得していないため、世界的な大流行（パンデミック）となり、大きな健康被害とこれに伴う社会的影響をもたらすことが懸念されている。

また、未知の感染症である新感染症の中でその感染力の強さから新型インフルエンザと同様に社会的影響が大きいものが発生する可能性がある。

これらが発生した場合には、国家の危機管理として対応する必要がある。

新型インフルエンザ等対策特別措置法（平成24年法律第31号。以下「特措法」という。）は、病原性が高い新型インフルエンザや同様に危険性がある新感染症が発生した場合に、国民の生命及び健康を保護し、国民生活及び経済に及ぼす影響が最小となるようにすることを目的に、国、地方公共団体、指定（地方）公共機関、事業者等の責務、新型インフルエンザ等の発生時における措置及び新型インフルエンザ等緊急事態措置等の特別の措置を定めたものであり、感染症の予防及び感染症の患者に対する医療に関する法律（平成10年法律第114号。以下「感染症法」という。）等と相まって、国全体としての万全の態勢を整備し、新型インフルエンザ等対策の強化を図るために、平成25年4月に施行された。

2 湖西市行動計画の作成

市は、特措法第8条の規定により、新型インフルエンザ等対策政府行動計画（以下「政府行動計画」という。）に基づき作成された静岡県新型インフルエンザ等対策行動計画（以下「県行動計画」という。）に基づき、湖西市新型インフルエンザ等対策行動計画（以下「市行動計画」という。）を作成する。

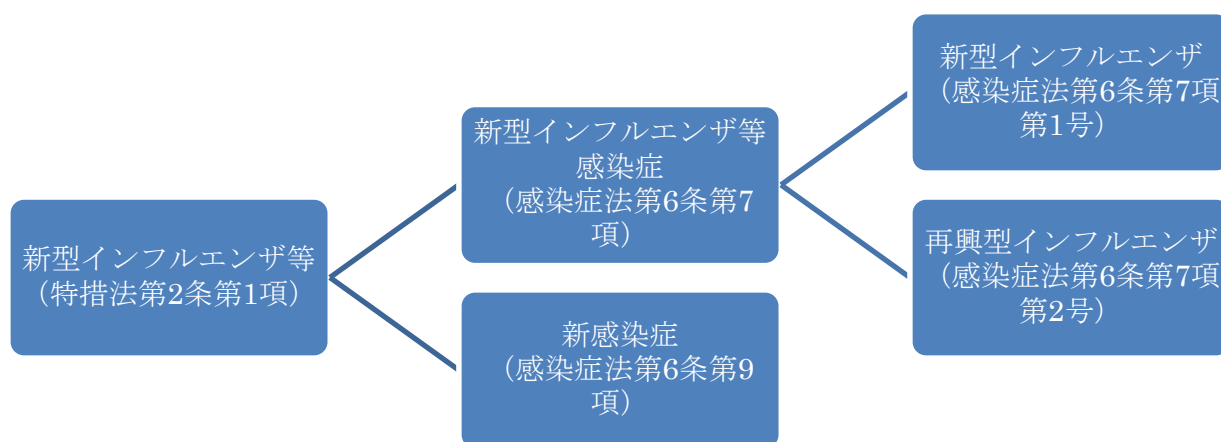


市行動計画は、新型インフルエンザ等対策の実施に関する基本的な方針や各発生段階における対策を定めたものであり、病原性の高い新型インフルエンザ等への対応を念頭に置きつつ、発生した感染症の特性を踏まえ、病原性が低い場合等様々な状況で対応できるよう、対策の選択肢を示すものである。

3 対象とする感染症

市行動計画の対象とする感染症（以下「新型インフルエンザ等」という。）は政府行動計画及び県行動計画と同じく、以下のとおりである。

- ・感染症法第6条第7項に規定する新型インフルエンザ等感染症（以下「新型インフルエンザ」という。）
- ・感染症法第6条第9項に規定する新感染症で、その感染力の強さから新型インフルエンザと同様に社会的影響が大きなもの



第2章 新型インフルエンザ等対策の実施に関する基本的な方針

1 新型インフルエンザ等対策の目的及び基本的な戦略

新型インフルエンザ等の発生時期を正確に予知することは困難であり、その発生そのものを阻止することは不可能である。また、世界中のどこかで新型インフルエンザ等が発生すれば、我が国、さらには市への侵入も避けられないと考えられる。病原性が高くまん延のおそれのある新型インフルエンザ等が万一発生すれば、市民の生命や健康、経済全体にも大きな影響を与えかねない。このため、新型インフルエンザ等については、長期的には市民の多くが罹患するものであるが、患者の発生が一定期間に偏ってしまった場合、医療提供のキャパシティ（許容量）を超えてしまうことを念頭に置きつつ、新型インフルエンザ等対策を市の危機管理に関わる重要な課題と位置付け、次の2点を主たる目的として対策を講じていく。

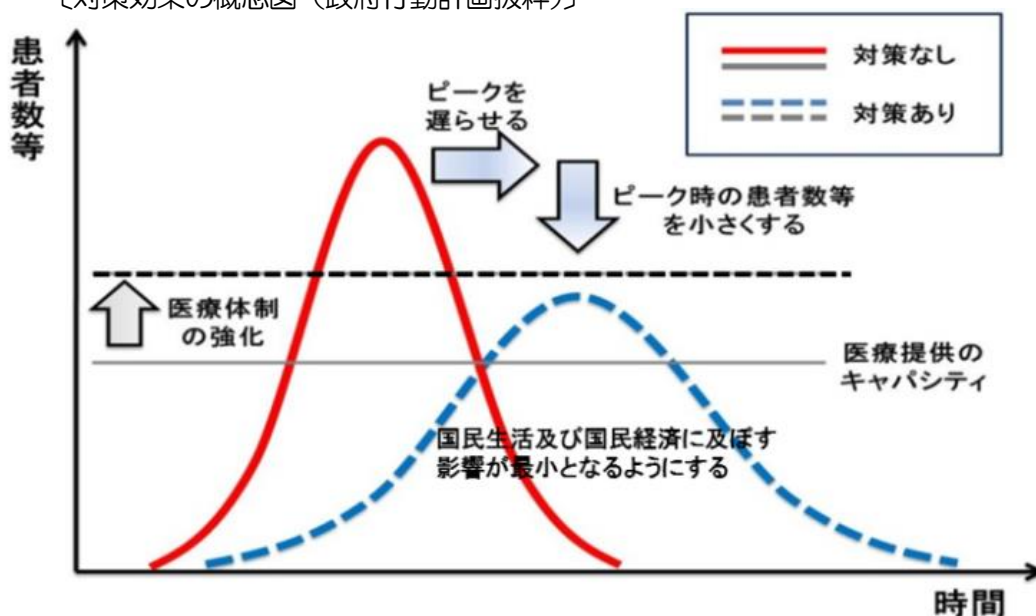
◆感染拡大を可能な限り抑制し、市民の生命及び健康を保護する。

- ・感染拡大を抑えて、流行のピークを遅らせ、医療体制の整備やワクチン製造のための時間を確保する。
- ・流行のピーク時の患者数等をなるべく少なくして医療体制への負荷を軽減するとともに、医療体制の強化を図ることで、患者数等が医療提供のキャパシティを超えないようにすることにより、必要な患者が適切な医療を受けられるようにする。
- ・適切な医療の提供により、重症者数や死亡者数を減らす。

◆市民生活及び市民経済に及ぼす影響が最小となるようにする。

- ・地域での感染対策等により、欠勤者の数を減らす。
- ・事業継続計画の作成、実施等により、医療の提供の業務又は市民生活及び市民経済の安定に寄与する業務の維持に努める。

〔対策効果の概念図（政府行動計画抜粋）〕



2 新型インフルエンザ等対策の基本的考え方

政府行動計画において、新型インフルエンザ等対策の基本的な考え方を次のとおり示しており、市の対策は、県と同様に、この考え方に基づいて行うものとする。

【政府行動計画の基本的な考え方】

新型インフルエンザ等対策は、発生の段階や状況の変化に応じて柔軟に対応していく必要があることを念頭に置かなければならない。過去のインフルエンザのパンデミックの経験等を踏まえ、一つの対策に偏重して準備を行うことは、大きなリスクを背負うことになりかねない。本政府行動計画は、病原性の高い新型インフルエンザ等への対応を念頭に置きつつ、発生した感染症の特性を踏まえ、病原性が低い場合等様々な状況で対応できるよう、対策の選択肢を示すものである。

そこで、我が国においては、科学的知見及び各国の対策も視野に入れながら、我が国の地理的な条件、大都市への人口集中、交通機関の発達度等の社会状況、医療体制、受診行動の特徴の国民性も考慮しつつ、各種対策を総合的・効果的に組み合わせてバランスのとれた戦略を目指すこととする。その上で、新型インフルエンザ等の発生前から流行が収まるまでの状況に応じて、次の点を柱とする一連の流れをもった戦略を確立する。（具体的な対策は発生段階ごとに記載）

なお、実際に新型インフルエンザ等が発生した際には、病原性・感染力等の病原体の特徴、流行の状況、地域の特徴、その他の状況を踏まえ、人権への配慮や、対策の有効性、実行可能性及び対策そのものが国民生活及び国民経済に与える影響等を総合的に勘案し、行動計画等で記載するものの中から、実施すべき対策を選択し決定する。

- 発生前の段階では、水際対策¹の実施体制の構築、抗インフルエンザウイルス薬等の備蓄や地域における医療体制の整備、ワクチンの研究・開発と供給体制の整備、国民に対する啓発や政府・企業による事業継続計画等の策定など、発生に備えた事前の準備を周到に行っておくことが重要である。
- 世界で新型インフルエンザ等が発生した段階では、直ちに、対策実施のための体制に切り替える。

新型インフルエンザ等が海外で発生した場合、病原体の国内への侵入を防ぐことは不可能であるということ为前提として対策を策定することが必要である。海外で発生している段階で、国内の万全の体制を構築するためには、我が国が島国であるとの特性を生かし、検疫の強化等により、病原体の国内侵入の時期をできる限り遅らせることが重要である。
- 国内の発生当初の段階では、患者の入院措置や抗インフルエンザウイルス薬等による治療、感染のおそれのある者の外出自粛やその者の外出自粛やその者に対する抗インフルエンザウイルス薬の予防投与の検討、病原性に応じては、不要不急の外出の自粛要請や施設の使用制限等を行い、感染拡大のスピードをできる限り抑えることを目的とした各般の対策を講ずる。

¹ 水際対策は、あくまでも国内発生をできるだけ遅らせる効果を期待して行われるものであり、ウイルスの侵入を完全に防ぐための対策ではない。

- なお、国内外の発生当初などの病原性・感染力等に関する情報が限られている場合には、過去の知見等も踏まえ最も被害が大きい場合を想定し、強力な対策を実施するが、常に新しい情報を収集し、対策の必要性を評価し、更なる情報が得られ次第、適切な対策へと切り替えることとする。また、状況の進展に応じて、必要性の低下した対策についてはその縮小・中止を図るなど見直しを行うこととする。
- 国内で感染が拡大した段階では、国、地方公共団体、事業者等は相互に連携して、医療の確保や国民生活・国民経済の維持のために最大限の努力を行う必要があるが、社会は緊張し、いろいろな事態が生じることが想定される。したがって、あらかじめ決めておいたとおりにはいかないことが考えられ、社会の状況を把握し、状況に応じて臨機応変に対処していくことが求められる。
- 事態によっては、地域の実情等に応じて、都道府県や各省等が新型インフルエンザ等対策本部（以下「政府対策本部」という。）と協議の上、柔軟に対策を講じることができるようにし、医療機関を含めた現場が動きやすくなるような配慮・工夫を行う。

国民の生命及び健康に著しく重大な被害を与えるおそれがある新型インフルエンザ等への対策は、不要不急の外出の自粛要請、施設の使用制限等の要請、各事業者における業務縮小等による接触機会の抑制など医療対応以外の感染対策と、ワクチンや抗インフルエンザウイルス薬等を含めた医療対応を組み合わせる総合的に行うことが必要である。

特に、医療対応以外の感染対策については、社会全体で取り組むことにより効果が期待されるものであり、全ての事業者が自発的に職場における感染予防に取り組むことはもちろん、感染拡大を防止する観点から、継続する重要業務を絞り込むなどの対策を実施することについて積極的に検討することが重要である。

事業者の従業員のみならず、一定期間、事業者のサービス提供水準が相当程度低下する可能性を許容すべきことを国民に呼びかけることも必要である。

また、新型インフルエンザ等のまん延による医療体制の限界や社会的混乱を回避するためには、国、都道府県、市町、指定（地方）公共機関による対策だけでは限界があり、事業者や国民一人一人が、感染予防や感染拡大防止のための適切な行動や備蓄などの準備を行うことが必要である。新型インフルエンザ等対策は、日頃からの手洗いなど、季節性インフルエンザに対する対策が基本となる。特に、治療薬やワクチンが無い可能性が高いSARS²のような新感染症が発生した場合、公衆衛生対策がより重要である。

² 平成15年4月3日、SARS（重症急性呼吸器症候群）は感染症法上の新感染症として位置づけられた。同年7月14日、世界的な研究が進んだことにより、病原体や感染経路、必要となる措置が特定されてきたため、指定感染症として位置づけ。同年10月10日、SARSの一連の状況を契機とした感染症対策の見直しに関する感染症法及び検疫法の一部を改正する法律が成立し、同法において、感染力、罹患した場合の重篤性等に基づく総合的な観点からみた危険性が極めて高いなどの理由から、一類感染症として位置づけられた。なお、現在は二類感染症として位置づけられている。

3 新型インフルエンザ等対策実施上の留意点

市は、新型インフルエンザ等発生に備え、また発生したときに、特措法その他の法令、政府行動計画、県行動計画及び市行動計画又は業務計画に基づき、国、県、その他の市町、指定（地方）公共機関と相互に連携協力し、新型インフルエンザ等対策の的確かつ迅速な実施に万全を期す。この場合において、次の点に留意する。

(1) 基本的人権の尊重

市は、新型インフルエンザ等対策の実施に当たっては、基本的人権を尊重することとし、医療関係者への医療等の実施の要請等、不要不急の外出の自粛等の要請、学校、興行場等の使用等制限等の要請等、臨時の医療施設の開設のための土地等の使用等市民の権利と自由に制限を加える場合は、その制限は新型インフルエンザ等対策を実施するため必要最小限のものとする。

実施に当たっては、法令の根拠があることを前提として、市民に対して十分説明し、理解を得ることを基本とする。

(2) 危機管理としての特措法の性格

特措法は、万一の場合の危機管理のための制度であって、緊急事態に備えて様々な措置を講じることができるよう制度設計されている。しかし、新型インフルエンザや新感染症が発生したとしても、病原性の程度や、抗インフルエンザウイルス薬等の対策が有効であるなどにより、新型インフルエンザ等緊急事態の措置（以下「緊急事態措置」という）を講ずる必要がないこともあり得ると考えられ、どのような場合でもこれらの措置を講じるというものではないことに留意する。

(3) 関係機関相互の連携協力の確保

湖西市新型インフルエンザ等対策本部³（以下「市対策本部」という。）は、政府対策本部及び静岡県新型インフルエンザ等対策本部⁴（以下「県対策本部」という。）と相互に緊密な連携を図りつつ、新型インフルエンザ等対策を総合的に推進する。

市対策本部長は、市内の新型インフルエンザ等対策の総合的な推進に当たり、特に必要があると認める場合には、県対策本部長に対して、新型インフルエンザ等対策に関する総合調整を行うように要請する⁵。また、市は未発生期の段階から、発生に備え、県と協議、必要事項について調整を行う。

(4) 記録の作成・保存

市は、新型インフルエンザ等が発生した段階で、新型インフルエンザ等対策の実施に係る記録を作成し、保存し、個人情報に配慮して公表する。

³ 特措法第 34 条

⁴ 特措法第 23 条

⁵ 特措法案 36 条第 2 項、第 3 項

4 新型インフルエンザ等発生時の被害想定等

(1) 新型インフルエンザ等発生時の被害想定

新型インフルエンザは、発熱、咳（せき）といった初期症状や飛沫感染、接触感染が主な感染経路と推測される⁶など、基本的にはインフルエンザ共通の特徴を有していると考えられるが、鳥インフルエンザ（H5N1）等に由来する病原性の高い新型インフルエンザの場合には、高い致死率となり、甚大な健康被害が引き起こされることが懸念される。

政府行動計画では、有効な対策を考える上で、被害想定として、患者数等の流行規模に関する数値を置いているが、実際に新型インフルエンザが発生した場合、これらの想定を超える事態も、下回る事態もあり得るということを念頭に置いて対策を検討することが重要であるとしている。また、新型インフルエンザの流行規模が、病原体側の要因（出現した新型インフルエンザウイルスの病原性や感染力等）や宿主側の要因（人の免疫の状態等）、社会環境など多くの要素に左右されるものであって、病原性についても高いものから低いものまで様々な場合があり得、その発生の時期も含め、事前にこれらを正確に予測することは不可能であるとしている。

被害想定については、引き続き最新の科学的知見の収集に努め、必要に応じて見直しを行うと政府行動計画にあることから、市行動計画においてもその見直しに準じていく。

政府行動計画においては、現時点における科学的知見や過去に世界で大流行したインフルエンザのデータを参考に、一つの例として次のように想定している。

【被害想定】

- 全人口の25%が新型インフルエンザに罹患したとする。
- 死亡者は、罹患を致死率2.0%した者のうち、中等度を致死率0.53%（アジアインフルエンザ等のデータ）重度2%（スペインインフルエンザのデータ）と想定
- 入患者数、死亡者数、1日当たりの最大入院患者数は、外来患者（医療機関受診患者数）の推計の上限値を基として推計
- 1日当たりの最大入院患者数は、流行が各地域で約8週間続くという仮定の下での入院患者の発生分布を試算

6 WHO "Pandemic Influenza Preparedness and Response" 2009年（平成21年）WHO ガイダンス文書

政府行動計画における被害想定を基に市の被害を想定すると次のとおりである。

【湖西市における新型インフルエンザの発生時の被害想定】

	湖西市 15,400	
り患者数	約 6,300 人	
医療機関受診患者数	約 6,300 人～12,000 人	
	中等度	重度
入院患者数	約 260 人	約 960 人
死亡者数	約 90 人	約 310 人
一日当たりの最大入院患者数 ⁷	約 50 人	約 200 人

*市の人口は平成 25 年住民基本台帳による数を使用。

【参考】

	全国		県	
医療機関受診患者数	約 1,300 万人～ 約 2,500 万人 ⁸		約 38 万 2 千人～約 73 万 5 千人	
	中等度	重度	中等度	重度
入院患者数	約 53 万人	約 200 万人	約 1 万 6 千 人	約 5 万 9 千 人
死者数	約 17 万人	約 64 万人	約 5 千人	約 1 万 9 千 人
1 日当たりの最大入院患者数	約 10 万 1 千人	約 39 万 9 千人	約 3 千人	約 1 万 2 千 人

この被害想定は、新型インフルエンザワクチンや抗インフルエンザウイルス薬等による介入の影響（効果）、現在の我が国の医療体制、衛生状態等一切考慮していない。

なお、未知の感染症である新感染症については、被害を想定することは困難であるが、新感染症の中で、全国的かつ急速なまん延のおそれのあるものは新型インフルエンザと同様に社会的影響が大きく、国家の危機管理として対応する必要があり、併せて特措法の対象とされたところである。そのため、新型インフルエンザの発生を前提とした被害想定を参考に新感染症も含めた対策を検討・実施することとなる。このため、今までの知見に基づき飛沫感染・接触感染への対策を基本としつつも、空気感染対策も念頭に置く必要がある。（政府行動計画抜粋）

⁷ 流行発生から 5 週目と推計される

⁸ 米国疾病予防センターの推計モデルによる推計

(2) 新型インフルエンザ等発生時の社会への影響

新型インフルエンザ等による社会への影響には多くの議論があるが、一つの例として以下のような影響が想定される。

市民の 25%が、流行期間（約8週間）にピークを作りながら順次り患する。り患者は1週間から 10 日間程度り患し、欠勤する。り患した従業員の大部分は、一定の期間欠勤後、治癒し（免疫を得て）、職場に復帰する。

ピーク時（約2週間⁹）に従業員が発症して欠勤する割合は、多く見積もって 5%程度¹⁰と考えられるが、従業員自身のり患のほか、むしろ家族の世話、看護等（学校・保育施設等の臨時休業や、一部の福祉サービスの縮小、家庭での療養などによる）のため、出勤が困難となる者、不安により出勤しない者がいることを見込み、ピーク時（約2週間）には従業員の最大 40%程度が欠勤するケースが想定される。

⁹ アメリカ・カナダの行動計画において、ピーク期間は約2週間と設定されている。

¹⁰ 2009年に発生した新型インフルエンザ（A/H1N1）のピーク時にり患した者は国民の約1%（推定）

5 対策推進のための役割分担

(1) 国の役割

国は、新型インフルエンザ等が発生したときは、自ら新型インフルエンザ等対策を的確かつ迅速に実施し、地方公共団体及び指定（地方）公共機関が実施する新型インフルエンザ等対策を的確かつ迅速に支援することにより、国全体として万全の態勢を整備する責務を有する¹¹。

事務又は業務の大綱
ア 新型インフルエンザ等及びこれに係るワクチンその他の医薬品の調査・研究の推進 ¹²
イ WHOその他の国際機関及びアジア諸国その他の諸外国との国際的な連携を確保し、新型インフルエンザ等に関する調査及び研究に係る国際協力の推進 ¹³
ウ 発生前は、「新型インフルエンザ等対策閣僚会議」及び閣僚会議を補佐する「新型インフルエンザ等及び鳥インフルエンザ等に関する関係省庁対策会議」（以下「関係省庁対策会議」という。）の枠組みを通じ、政府一体となった取組を総合的に推進
エ 指定行政機関は、政府行動計画等踏まえ、相互に連携を図りつつ、新型インフルエンザ等が発生した場合の所管行政分野における発生段階に応じた具体的な対応をあらかじめ決定しておく
オ 新型インフルエンザ等の発生時には、医学・公衆衛生等の専門家を中心とした学識経験者の意見を聴きつつ、政府対策本部の下で新型インフルエンザ等への基本的な対処の方針（以下「基本的対処方針 ¹⁴ 」という。）を決定し、対策を強力に推進する。

¹¹ 特措法第3条第1項

¹² 特措法第3条第2項

¹³ 特措法第3条第3項

¹⁴ 特措法第18条

(2) 県の役割

事務又は業務の大綱	
ア	県行動計画の作成
イ	県対策本部の設置、運営
ウ	組織の整備、訓練
エ	地域医療体制の確保
オ	予防・まん延防止
カ	サーベイランスの実施
キ	県民に対する情報提供
ク	県民生活及び地域経済の安定の確保
ケ	市町、関係機関との緊密な連携 ¹⁵

(3) 市の役割

事務又は業務の大綱	
ア	市行動計画の作成
イ	市対策本部の設置、運営
ウ	組織の整備、訓練
エ	予防接種体制の確保
オ	予防・まん延防止
カ	市民に対する情報提供
キ	市民の生活支援
ク	要援護者への支援
ケ	県、近隣市町、関係機関との緊密な連携

(4) 医療機関の役割

事務又は業務の大綱	
ア	診療継続計画の策定
イ	院内感染対策、医療資器材の確保等
ウ	地域における医療連携体制の整備
エ	医療の提供

(5) 指定（地方）公共機関の役割

事務又は業務の大綱	
ア	業務計画の策定
イ	新型インフルエンザ等対策の実施

¹⁵ 平時においては、以下のような方策を講じることが必要である。

・県行動計画を作成する際に、他の地方公共団体と関係がある事項を定めるときは、他の地方公共団体の長の意見を聴く（特措法第7条第3項）など、特措法に定められる連携方法を確実に実施すること。

また、県の行動計画の案の作成の際、あらかじめ学識経験者の意見者の意見を聴く（特措法第7条第8項）ための場を設けるに当たって、市町の代表者の参加など、特措法上の連携方策以外にも県内の市町が連携して対策を講じるための方策もある。

・県内の保健所設置市等も含めた他の地方公共団体と共同での訓練の実施に努めること（特措法第12条第1項）

(6) 登録事業者の役割

事務又は業務の大綱	
ア	発生前に備えた感染対策の実施や重要業務の事業継続準備
イ	事業の継続 ¹⁶

(7) 一般の事業者の役割

事務又は業務の大綱	
ア	発生に備えた感染対策の実施
イ	感染防止措置の徹底、一部事業の縮小 ¹⁷

(8) 市民の役割

事務又は業務の大綱	
ア	発生前から新型インフルエンザ等に関する情報や知識の取得
イ	季節性インフルエンザにおいても行っている、マスク着用 ¹⁸ 、 咳エチケット、手洗い、うがい ¹⁹ 等の個人レベルでの感染対策の実施
ウ	発生時に備えた食料品、生活必需品等の備蓄
エ	発生時の個人レベルでの感染対策の実施 ²⁰

¹⁶ 特措法第4条第3項

¹⁷ 特措法第4条第1項及び第2項

¹⁸ 患者はマスクを着用することで他者への感染を減らすことができる。他者からの感染を防ぐ目的では、手洗い等との組み合わせにより一定の予防効果があったとする報告もあるが、インフルエンザの予防効果に関する賛否が分かれており、科学的根拠は未だ確立されていない。

¹⁹ うがいについては、風等の上気道感染症の予防への効果があるとする報告もあるが、インフルエンザの予防効果に関する科学的根拠は未だ確立されていない。

²⁰ 特措法第4条第1項

6 市行動計画の主要6項目

市行動計画は、新型インフルエンザ等対策の2つの主たる目的である「感染拡大を可能な限り抑制し、市民の生命及び健康を保護する」こと及び「市民生活及び市民経済に及ぼす影響が最小となるようにする」ことを達成するための戦略を実現する具体的な対策について、発生段階ごとに、「(1) 実施体制」、「(2) 情報収集・提供・共有」、「(3) 予防・まん延防止²¹」、「(4) 予防接種」、「(5) 医療」、「(6) 市民生活及び市民経済の安定の確保」の6項目に分けて作成することとする。各項目ごとの対策については、発生段階ごとに記述するが、横断的な留意点等については以下のとおりである。

(1) 実施体制

新型インフルエンザ等は、その病原性が高く感染力が強い場合、多数の国民の生命・健康に甚大な被害を及ぼすほか、社会・経済活動の縮小・停滞を招くおそれがあり、危機管理の問題として取り組む必要がある。

このため、市は、国、県、その他の市町、指定（地方）公共機関、事業者等と相互に連携を図り、一体となった取組を行うことが求められる。

新型インフルエンザ等が発生し政府が、新型インフルエンザ等緊急事態宣言²²（以下「緊急事態宣言²³」という。）がなされる前においては、市では、湖西市 **新型インフルエンザ等対策推進会議に於いて**、事前準備の進捗を確認し、庁内各部局の連携を確保しながら、一体となった取組みを推進する。さらに、関係部課においては、県や事業者との連携を強化し、発生時に備えた準備を進める。

新型インフルエンザ等が発生し、政府が緊急事態宣言がなされたときは、特措法及び湖西市新型インフルエンザ等対策本部条例に基づき、直ちに市対策本部を設置し、必要な措置を講じる。

また、医療体制に関する調整及び市行動計画の作成等の際し、県主催の「地域新型インフルエンザ等医療専門家会議」、「地域新型インフルエンザ等連絡会」、「湖西市医会」とも連携していく。

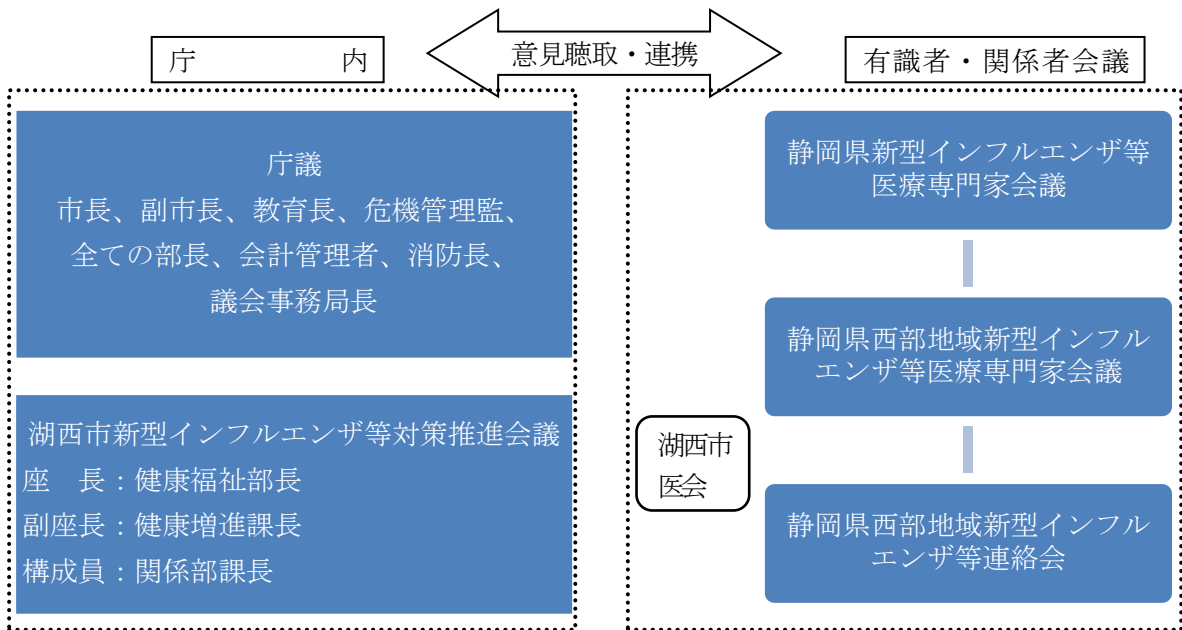
²¹ まん延防止とは、インフルエンザの場合、疾患の特性（不顕性感染の存在、感染力等）から感染の拡大を完全に防ぎ止めることは不可能であり、流行のピークを出来るだけ遅らせ、またそのピーク時の患者数を小さくすることである。

²² 特措法第32条

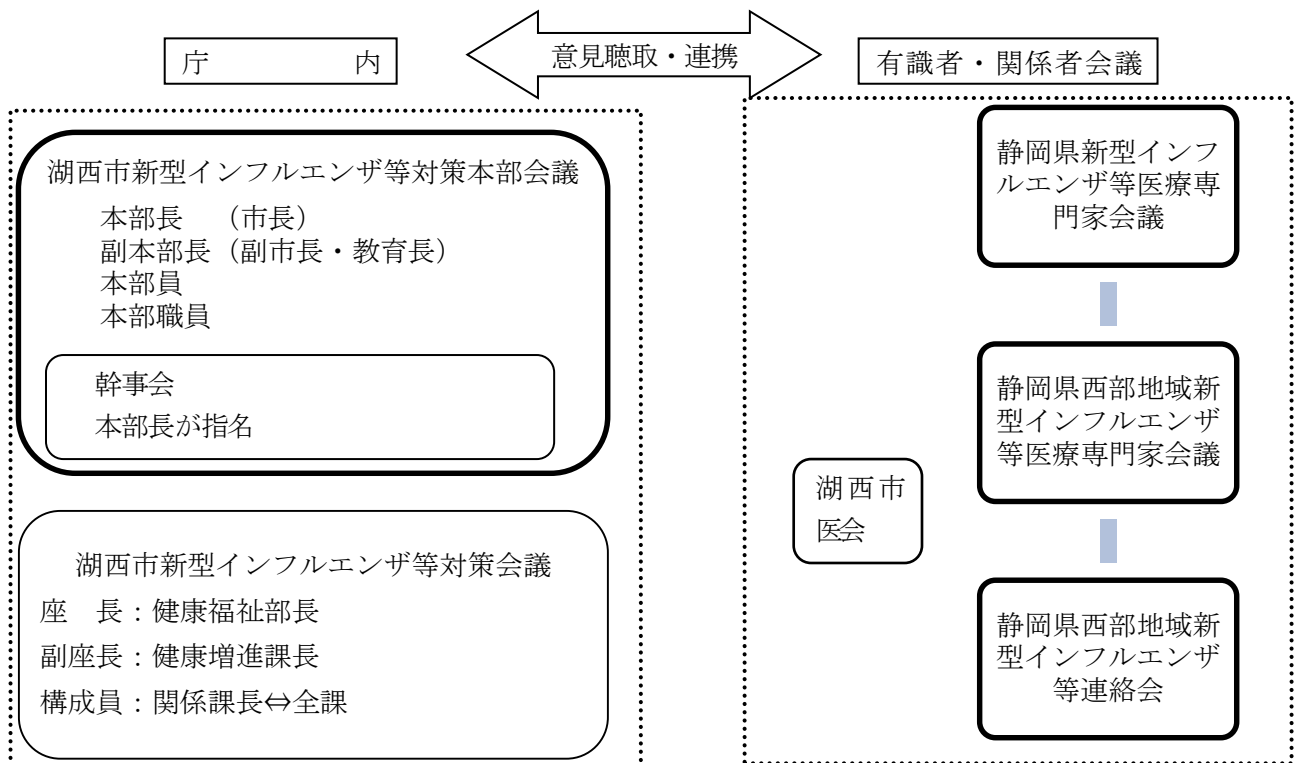
²³ 新型インフルエンザ等緊急事態宣言においては、緊急事態措置を実施すべき機関、区域が公示される。講じられる緊急事態措置については、緊急事態宣言の期間、区域を超えない範囲において、別途、個別に決定される。

会議名	協議事項	委員構成
静岡県新型インフルエンザ等医療専門家会議	医療提供体制・その他新型インフルエンザに関する医療を協議するとともに、連携体制の確認、訓練等を行う。	会長 県理事（医療衛生担当） 構成員 県医会、 県病院協会、 病院代表、 政令市保健所、 県保健所等
地域新型インフルエンザ等医療専門家会議	地域における医療提供体制・その他新型インフルエンザに関する医療を協議するとともに、連携体制の確認、訓練等を行う。	会長 郡市医会、 管内医療機関等
地域新型インフルエンザ等連絡会	発生時の消毒、患者搬送等について協議するとともに、連携体制の確認、訓練等を行う。	会長 保健所長 構成員 郡市医会、 各市町感染担当課、 消防救急担当課等

市対策本部設置前の体制



◆ 市対策本部を設置した場合



(2) 情報収集・提供・共有

ア 情報収集

新型インフルエンザ等対策を適時適切に実施するためには、サーベイランスにより、いずれの段階においても、鳥類、豚間での発生動向を含み新型インフルエンザ等に関する様々な情報を、収集・分析し、また、サーベイランスの結果を関係者に迅速かつ定期的に還元することにより、効果的な対策に結び付けることが重要である。

なお、未知の感染症である新感染症に対するサーベイランスは現時点では行われていないため、本項目では、新型インフルエンザに限って記載するが、新感染症が発生した場合は、国、県と連携し、国から示される症例定義や診断方法を早期に関係機関へ周知し、情報収集体制を構築する。

特に、海外で発生した段階から国内の患者数が少ない段階では、情報が限られていることから、患者の全数把握等の強化を図り、国が行う患者積極的な情報収集に協力する。

国内の患者数が増加し、新型インフルエンザの特徴や患者の臨床像等の情報が蓄積された時点では、患者の全数把握は、その意義が低下し、また、市や医療現場の負担も過大となることから、入院患者及び死亡者に限定した情報収集に切り替える。

サーベイランスにより把握された流行の開始時期や規模等の情報は、市内における医療体制等の確立に活用する。また、市内で流行する病原体の性状(インフルエンザウイルスの亜型や薬剤耐性等)に関する情報や、死亡者を含む重症者の状況に関する情報は、医療機関における診療に役立てる。

イ 情報提供・共有の目的

市の危機管理に関わる重要な課題という共通の理解の下に、県、市、医療機関、指定(地方)公共機関、事業者、個人の各々が役割を認識し、十分な情報の基に判断し適切な行動をとるため、対策の全ての段階、分野において、コミュニケーションが必須である。コミュニケーションは双方向性のものであり、一方向性の情報提供だけでなく、情報共有や情報の受取手の反応の把握までも含むことに留意する。

ウ 情報提供手段の確保

市民については、情報を受け取る媒体や情報の受け取り方が千差万別であることが考えられるため、外国人、障がいのある人などの情報が届きにくい人にも配慮し、受取手に応じた情報提供のためインターネットを含めた多様な媒体を用いて、理解しやすい内容で、できる限り迅速に情報提供を行う。

エ 発生前における市民等への情報提供

発生時の危機に対応する情報提供だけでなく、予防的対策として、発生前においても、市は、新型インフルエンザ等の予防及びまん延の防止に関する情報や様々な調査研究の結果などを市民のほか、医療機関、事業者に情報提供する。こうした適切な情報提供を通し、発生した場合の新型インフルエンザ等対策に関し周知を図り、理解してもらうことが、いざ発生した時に市民に正しく行動してもらう上で必要である。特に、幼稚園・保育園・小中学校は集団感染が発生するなど、地域における感染拡大の起点となりやすいことから、健康増進課及び幼児教育課等は連携して、児童、生徒及びその保護者に対して、感染症や公衆衛生について丁寧に情報提供していくことが必要である。

オ 発生時における市民等への情報提供及び共有

新型インフルエンザ等の発生時には、発生段階に応じて、国内外の発生状況、対策の実施状況等について、特に、対策の決定のプロセス（科学的知見を踏まえてどのような事項を考慮してどのように判断がなされたのか等）や、対策の理由、対策の実施主体を明確にしなが、患者等の人権にも配慮して迅速かつ分かりやすい情報提供を行う。

市民への情報提供に当たっては、媒体の中でも、テレビ、新聞等のマスメディアの役割が重要であり、その協力が不可欠である²⁴。提供する情報の内容については、個人情報の保護と公益性に十分配慮して伝えることが重要である。また、誤った情報が出た場合は、風評被害を考慮し、個々に打ち消す情報を発信する必要がある。

市民の情報を受け取る媒体や情報の受け取り方は千差万別であることが考えられるため、ホームページの活用等多様な媒体を用いて、理解しやすい内容で、できる限り迅速に情報提供を行う。

また、新型インフルエンザ等には誰もが感染する可能性があり、感染したことについて、患者やその関係者には責任はないこと、個人レベルでの対策が全体の対策推進に大きく寄与することを伝え、発生前から認識の共有を図ることも重要である。

カ 情報提供体制

情報提供に当たっては、提供する情報の内容について統一を図ることが重要であり、情報を集約して一元的に発信する体制を構築する。

また、提供する情報の内容に応じた適切な者が情報を発信することも重要である。さらに、コミュニケーションは双方向性のものであることに留意し、必要に応じ、地域において住民の不安等に応えるための説明の手段を講じるとともに、常に発信した情報に対する情報の受取手の反応などを分析し、その後の情報提供に活かしていく。

²⁴ マスメディアについては、言論その他表現の自由が確保されるよう特段の配慮を行う。

(3) 予防・まん延防止

ア 予防・まん延防止の目的

新型インフルエンザ等のまん延防止対策は、流行のピークをできるだけ遅らせることで体制の整備を図るための時間を確保することにつながる。また、流行のピーク時の受診患者数等を減少させ、入院患者数を最小限にとどめ、医療体制が対応可能な範囲内に収めることにつながる。

個人対策や地域対策、職場対策・予防接種などの複数の対策を組み合わせで行うが、まん延防止対策には、個人の行動を制限する面や、対策そのものが社会・経済活動に影響を与える面もあることを踏まえ、対策の効果と影響とを総合的に勘案し、新型インフルエンザ等の病原性・感染力等に関する情報や発生状況の変化に応じて、実施する対策の決定、実施している対策の縮小・中止を行う。

イ 主なまん延防止対策

個人における対策については、国内における発生の初期の段階から、新型インフルエンザ等の患者に対する入院措置や、患者の同居者等の濃厚接触者に対する感染を防止するための協力（健康観察、外出自粛の要請等）等の感染症法に基づく措置を行うとともに、マスク着用・咳エチケット・手洗い・うがい、人混みを避けること等の基本的な感染対策を実践するよう促す。

また、新型インフルエンザ等緊急事態において、県知事が必要に応じ、不要不急の外出の自粛要請等²⁵及び施設の使用制限の要請等²⁶を行った場合、市は、迅速に市民および事業者に周知する。

地域対策・職場対策については、国内における発生の初期の段階から、個人における対策のほか、職場における感染対策の徹底等の季節性インフルエンザ対策として実施されている感染対策をより強化して実施する。

その他、海外で発生した際には、国等が行う水際対策に必要な協力を行う。

(4) 予防接種

ア ワクチン

ワクチンの接種により、個人の発症や重症化を防ぐことで、受診患者数を減少させ、入院患者数や重症者数を抑え、医療体制が対応可能な範囲内に収めるよう努めることは、新型インフルエンザ等による健康被害や社会・経済活動への影響を最小限にとどめることにつながる。

新型インフルエンザ対策におけるワクチンについては、製造の元となるウイルス株や製造時期が異なるプレパンデミックワクチンとパンデミックワクチンの2種類がある。なお、新感染症については、発生した感染症によってはワクチンを開発することが困難であることも想定されるため、本項目では新型インフルエンザに限って記載する。

²⁵ 特措法第45条第1項

²⁶ 特措法第45条第2項、3項

イ 特定接種

特定接種とは、特措法第28条に基づき、「医療の提供並びに国民生活及び国民経済の安定を確保するため」に行うものであり、政府対策本部長がその緊急の必要があると認めるときに、臨時に行われる予防接種をいう。

特定接種の対象となり得る者は

①「医療の提供の業務」又は「国民生活及び国民経済の安定に寄与する業を行う事業者であって厚生労働大臣の定めるところにより厚生労働大臣の登録を受けているもの（以下「登録事業者」という。）のうちこれらの業務に従事する者（厚生労働大臣の定める基準に該当する者に限る。）

②新型インフルエンザ等対策の実施に携わる地方公務員

その範囲、接種順位等の基本的な考え方は、政府行動計画に示されているが、国は、発生した新型インフルエンザ等の病原性などに応じて政府対策本部が判断し、基本的対処方針により、接種総枠、対象、接種順位、その他の関連事項を示すとしている。

登録事業者²⁷のうち特定接種対象となり得る者は国を実施主体として、新型インフルエンザ等対策の実施に携わる県職員は県を、市職員は市を実施主体として、原則として集団的接種により接種を実施することとなるため、市は、接種が円滑に行えるよう未発生期から接種体制の構築を図る。

ウ 住民接種

特措法において、緊急事態措置の一つとして住民に対する予防接種の枠組ができたことから、緊急事態宣言がされている場合については、特措法第46条に基づき、予防接種法第6条第1項の規定（臨時の予防接種）による予防接種を行う。

一方、緊急事態宣言がされていない場合については、予防接種法第6条第3項の規定（新臨時接種）に基づく接種を行う。

なお住民接種順位等の基本的な考え方は、政府行動計画に示されているが、実施においては、発生した新型インフルエンザの病原性等の情報を踏まえ国が示す接種順位により住民接種を行う。市は、原則として集団的接種により住民接種が円滑に行えるよう接種体制の構築を図る。

²⁷ 登録事業者のうち「市民生活・市民経済安定分野」の事業者は、接種体制の構築が登録要件となる。

(5) 医療

市は、地域の関係者と密接に連携を図り、保健所を中心とした二次医療圏を単位とした医療体制の整備を推進し協力をする。また、国・県と連携し、区域内の医療機関が不足した場合、県が行う臨時医療機関の設置に協力する。

(6) 市民生活及び市民経済の安定の確保

新型インフルエンザは、多くの市民が罹患し、各地域での流行が約8週間程度続くとされている。また、本人や家族の罹患等により、市民生活及び市民経済の大幅な縮小と停滞を招くおそれがある。

このため、新型インフルエンザ等発生時に、市民生活及び市民経済への影響を最小限に抑えることができるよう、国、県、市、医療機関、指定（地方）公共機関及び登録事業者は特措法に基づき事前に十分準備を行い、一般の事業者においても事前の準備を行うことが重要である。

7 発生段階

新型インフルエンザ等対策は、感染の段階に応じて採るべき対応が異なることから、事前の準備を進め、状況の変化に即応した意思決定を迅速に行うことができるよう、あらかじめ発生の段階を設け、各段階において想定される状況に応じた対応方針を定めておく必要がある。

国全体での発生段階は、我が国の実情に応じた戦略に即して5つの発生段階に分類し、発生段階の移行については、海外や国内の発生状況を踏まえて、政府対策本部が決定される。

また、地域での発生状況は様々であり、その状況に応じ、特に地域での医療提供や感染対策等について、柔軟に対応する必要があることから、地域における発生段階を定めることとされており、その以降については必要に応じて国との協議の上で、県対策本部が判断する。

市は、行動計画で定められた対策を発生段階に応じて実施する。

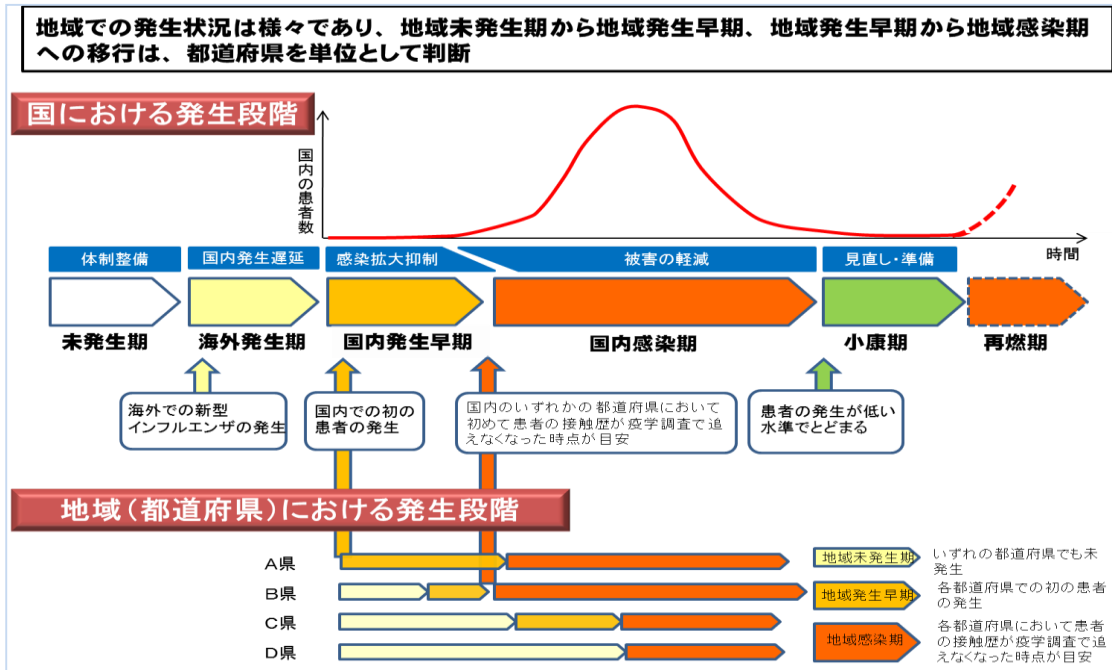
なお、段階の期間は極めて短期間となる可能性があり、また、必ずしも、段階どおりに進行するとは限らないこと、さらには、緊急事態宣言がなされた場合には、対策の内容も変化するという事に留意が必要である。

<発生段階とその状態>

発生段階	状態
未発生期	新型インフルエンザ等が発生していない状態
海外発生期	海外で新型インフルエンザ等が発生した状態
国内発生早期	国内のいずれかの都道府県で新型インフルエンザ等の患者が発生しているが、全ての患者の接触歴を疫学調査で追える状態 県においては、以下のいずれかの発生段階。 <ul style="list-style-type: none"> ・ 県内未発生期：県内で新型インフルエンザ等の患者が発生していない状態 ・ 県内発生早期：県内で新型インフルエンザ等の患者が発生しているが、全ての患者の接触歴を疫学調査で追える状態
国内感染期	国内のいずれかの都道府県で、新型インフルエンザ等の患者の接触歴が疫学調査で追えなくなった状態 県においては、以下のいずれかの発生段階。 <ul style="list-style-type: none"> ・ 県内未発生期：県内で新型インフルエンザ等の患者が発生していない状態 ・ 県内発生早期：県内で新型インフルエンザ等の患者が発生しているが、全ての患者の接触歴を疫学調査で追える状態 ・ 県内感染期：県内で新型インフルエンザの患者の接触歴が疫学調査で追えなくなった状態 ※感染拡大～まん延～患者の減少
小康期	新型インフルエンザ等の患者の発生が減少し、低い水準でとどまっている状態

(政府行動計画を一部改変)

＜国及び地域（都道府県）における発生段階＞



＜新型インフルエンザ等対策の流れ＞

	未発生期	海外発生期	国内発生早期	国内感染期	小康期
対策の考え方	・発生に備えて体制整備をする	・国内発生をできる限り遅らせる ・国内発生に備えての体制整備	・流行のピークを遅らせるための感染対策を実施 ・感染拡大に備えた体制整備	・対策の主眼を早期の積極的な感染拡大防止から被害軽減に変更 ・必要なライフライン等の事業活動を継続	・第二波に備えた第一波の評価 ・医療体制、社会経済活動の回復
実施体制	★緊急事態宣言発令時必置				
	新型インフルエンザ等対策推進会議		新型インフルエンザ等対策本部		
	※市対策本部は、緊急事態解除宣言後に廃止				
情報収集・提供・共有	相談窓口の実施				
	様々な媒体を使った分かりやすい情報提供				
	一般的な感染予防対策等・新型インフルエンザ等対策の情報提供				
予防・まん延防止	国・県からの市民、事業者、福祉施設への感染対策の要請に従うよう注意喚起 ★学校等の休業、外出自粛要請・施設使用制限 ※緊急事態宣言発令時に県が要請				
予防接種	予防接種（特定接種・住民接種）				
医療提供体制	二次医療圏での医療体制設備推進への協力 医療機関への情報提供			医療機関不足の場合 県が行う臨時医療機関の設置協力	通常の医療体制に戻す
市民生活及び市民経済の安定の確保	○調査研究結果などの情報を市民、医療機関事業者、学校などへ提起		事業者への感染対策の呼びかけ 遺体の一時安置準備		
	○要援護者生活支援の準備		水の安定供給 ★生活関連物資等の価格安定設置		
	○火葬・埋葬体制整備の準備 ○物資資材の備蓄		要援護者生活支援 火葬埋葬体制整備		

★新型インフルエンザ等緊急事態宣言時のみに必要に応じて実施する措置

第3章 各段階における対策

1 未発生期

(1) 想定状況等

想定状況	<ul style="list-style-type: none">・新型インフルエンザ等が発生していない状態。・海外において、鳥等の動物のインフルエンザウイルスが人に感染する例が散発的に発生しているが、人から人への持続的な感染はみられていない状況。
対策の目標	<ul style="list-style-type: none">・発生に備えて情報収集や体制の整備を行う。
対策の考え方	<p>1) 新型インフルエンザ等は、いつ発生するか分からないことから、平素から警戒を怠らず、市行動計画等を踏まえ、国、県等との連携を図り、対応体制の構築や訓練の実施、人材の育成等、事前の準備を推進する。</p> <p>2) 新型インフルエンザ等が発生した場合の対策等に関し、市民及び関係者全体での認識共有を図るため、継続的な情報提供を行う。</p>

(2) 実施体制

ア 行動計画等の作成

市は、特措法の規定に基づき、政府行動計画及び県行動計画を踏まえ、発生前から新型インフルエンザ等の発生に備えた行動計画の策定を行い、必要に応じて見直していく。

イ 体制整備及び連携強化

① 市は、新型インフルエンザ等対策を的確かつ迅速に実施するため、職員の配置等、新型インフルエンザ等対策に必要な体制、参集基準、連絡手段を整備する。

② 市は、国、県、他の市町、指定（地方）公共機関と相互に連携し、新型インフルエンザ等の発生に備え、平素からの情報交換、連携体制の確認、訓練を実施する²⁸。

²⁸ 特措法第12条

(3) 情報収集・共有・提供

ア 情報収集

- ① 市は、国、県等から新型インフルエンザ等の対策等に関する国内外の情報を収集する。
- ② 市は、インフルエンザの感染拡大を早期に探知するため、通常行われている集団風邪（インフルエンザ様疾患）の発生報告（学級・学校閉鎖等）を徹底するよう学校関係者等の協力を求め、県へ報告する。

イ 継続的な情報提供

- ① 市は、新型インフルエンザ等に関する基本的な情報や、発生した場合の対策について、各種媒体を利用し、継続的にわかりやすい情報提供を行う²⁹。
- ② 市は、マスク着用・咳エチケット・手洗い・うがい等、季節性インフルエンザに対しても実施すべき個人レベルの感染対策の普及を図る。

ウ 体制整備

市は、情報提供・共有の体制整備等の事前準備として以下を行う。

- ① 新型インフルエンザ等発生時に、県との連携の下に行う、発生状況に応じた市民への情報提供の内容（対策の決定プロセスや対策の理由、個人情報保護と公益性に十分配慮した内容、対策の実施主体）や、時期（定期・臨時）及び媒体（テレビや新聞等のマスメディア活用を基本とするが、情報の受取手に応じ、利用可能な複数の媒体・機関を活用する）等について検討を行い、あらかじめ想定できるものについては決定しておく。
- ② 一元的な情報提供を行うために、情報を集約して分かりやすく継続的に提供するとともに、常に情報の受取手の反応や必要としている情報を把握し、更なる情報提供に活かす体制を構築する。（広報担当官を中心としたチームの設置、コミュニケーション担当者間での適時適切な情報共有方法の検討等）
- ③ 国や県、関係機関等とメールや電話を活用して、緊急に情報を提供できる体制を構築する。さらにインターネット等を活用した、情報共有のあり方を検討する。
- ④ 新型インフルエンザ等発生時期に、市民からの相談に応じるため、相談窓口等の設置、周知の準備を進める。

²⁹ 特措法第13条

(4) 予防・まん延防止

ア 対策実施のための準備

① 個人における対策の普及

市は、住民に対し、マスク着用・咳エチケット・手洗い・うがい、人込みを避ける等の基本的な感染対策の普及を図り、また、自らの発症が疑わしい場合は、帰国者・接触者相談センター³⁰に連絡し、指示を仰ぎ、感染を広げないように不要な外出を控えること、マスクの着用等の咳エチケットを行うといった基本的な感染対策について理解促進を図る。

(5) 予防接種

ア 特定接種を行う事業者の登録

市は、国が行う登録作業にかかる周知、登録作業等に協力する。

イ 特定接種体制の構築

市は国の要請を受け、職員に対する特定接種の体制を構築する。

ウ 住民接種体制の構築

① 市は、国及び県の協力を得ながら、特措法第46条又は予防接種法第6条第3項に基づき、市内に居住する者に対し、速やかにワクチンを接種するための体制の構築を図る。

② 市は、国及び県の技術的な支援を受け、円滑な接種の実施のために、あらかじめ市町間で広域的な協定を締結するなど、居住する市以外の市町村における接種を可能にするように努める。

③ 市は、国が示す接種体制の具体的なモデル等を参考にしながら速やかに接種することができるよう、湖西市医会、事業者、学校関係者等と協力し、接種に携わる医療従事者等の体制や、接種の場所、接種の時期の周知・予約等、接種の具体的な実施方法について準備を進める。

エ 情報提供

市は、国から提供される新型インフルエンザ等対策におけるワクチンの役割や、供給体制・接種体制、接種対象者や接種順位のあり方といった基本的な情報について情報提供を行い、市民の理解促進を図る。

³⁰ 海外発生期から国内発生早期までの間に設置することとなっている。

(6) 医療

市は、地域の関係者と密接に連携を図り、保健所を中心とした二次医療圏を単位とした医療体制の整備推進に協力する。

(7) 市民生活及び市民経済の安定の確保

ア 新型インフルエンザ等発生時の要援護者³¹への生活支援の準備

市は、国の要請に基づき、県と連携し県内感染期における高齢者、障がいのある人等の要援護者への生活支援、搬送、死亡時の対応等について、要援護者の把握とともに、対策の準備をする。

イ 火葬能力等の把握

市は、火葬場の火葬能力及び一時的に遺体を安置できる施設等についての把握・検討を行い、火葬又は埋葬を円滑に行うための体制整備を県と連帯し取り組む。

ウ 物資及び資材の備蓄等³²

市は、国、県、指定（地方）公共機関等と連携し、新型インフルエンザ等対策の実施に必要な医薬品その他の物資及び資材を備蓄等し、又は施設及び設備の整備等を行う。

³¹ 要援護者については、政府有識者会議中間とりまとめ（平成25年2月7日）8.6「社会的弱者への支援について」に記載しており、その対象者は、「家族が同居していないまたは近くにいないため、介護ヘルパー等の介護や介助なしには日常生活ができない独居高齢者や障がいのある人が対象範囲となる。災害時要援護者の対象者を参考に範囲を定めることが考えられるが、災害時要援護者の対象であっても、同居者がいたり、家族が近くにいる場合や、あるいは独居高齢者であっても支障なく日常生活ができるものは対象外となる。」とされている。

³² 特措法第10条

2 海外発生期

(1) 想定状況等

想定状況	<ul style="list-style-type: none">・海外で新型インフルエンザが発生した状態・国内では、新型インフルエンザ等の患者は発生していない状態・海外においては、発生国・地域が限定的な場合、流行が複数の国・地域に拡大している場合等、様々な状況が想定される。
対策の目標	<ol style="list-style-type: none">1) 新型インフルエンザ等の国内侵入をできるだけ遅らせ、発生の遅延と早期発見に努める。2) 発生に備えて情報収集や体制の整備を行う。
対策の考え方	<ol style="list-style-type: none">1) 新たに発生した新型インフルエンザ等の病原性や感染力等について十分な情報がない場合は、病原性・感染力等が高い場合にも対応できるよう、強力な措置をとる。2) 対策の判断に役立つため、海外での発生状況、新型インフルエンザ等に関する積極的な情報収集を行う。3) 市内発生した場合には早期に発見できるようサーベイランス・情報収集体制を強化する。4) 海外での発生状況について注意喚起するとともに、国内発生に備え、国内発生した場合の対策についての確かな情報提供を行い、医療機関、市民に準備を促す。5) 基本的対処方針等に基づき、医療機関等への情報提供、検査体制の整備、診療体制の確立、市民生活及び市民経済の安定のための準備、予防接種体制の確立等、国内発生に備えた体制整備を急ぐ。

(2) 実施体制

- ア 市は、基本的対処方針及び県の対策に基づき、新型インフルエンザ等対策会議の開催等の実施体制を整える。
- イ 市は、海外において、り患した場合の病状の程度が、季節性インフルエンザと同等程度以下と認められる新型インフルエンザ等が発生したと国が判断する場合には、感染症法等に基づく各種対策を実施する。
- ウ 緊急事態宣言がなされる前であっても、状況により市対策本部を設置し新型インフルエンザ等対策を実施する。

(3) 情報収集・提供・共有

ア 情報収集

市は、インフルエンザの感染拡大を早期に探知するため、通常行われている集団風邪（インフルエンザ様疾患）の発生報告（学級・学校閉鎖等）を徹底するよう学校関係者等の協力を求め、集団発生の状況を県へ報告する。

イ 情報の提供

市は、国や県が発信している海外での発生状況、現在の対策、国内発生した場合に必要な対策等市民に対し周知する。（マスメディアや市のホームページ等の媒体・機関を活用し、詳細にわかりやすく、できる限りリアルタイムで情報提供し、注意喚起を行う。）

ウ 情報共有

市は、国や県、関係機関等と（インターネット等を活用した）窓口担当を設置し、対策の理由、プロセス等をメール等により共有する。

エ 相談窓口等の設置

- ① 市は、国からの要請を受け、他の公衆衛生業務に支障を来さないように、市民からの一般的な問い合わせに対応できる相談窓口等を設置し、国から配布されるQ&A等を参考にしながら、適切な情報提供を行う。
- ② 市は、市民から相談窓口等に寄せられる問い合わせ、国や県、関係機関等から寄せられる情報の内容を踏まえて、市民や関係機関がどのような情報を必要としているかを把握し、その後の情報提供に反映する。

(4) 予防・まん延防止

ア 市内でのまん延防止対策の準備

市は、国及び県と相互に連携し、市内における新型インフルエンザ等患者の発生に備え、市内でのまん延防止対策の準備を行う。また、市民にマスクの着用、咳エチケット、手洗い、うがい、人混みを避けること等の基本的な感染対策を実践するよう促す。

イ 感染症危険情報の提供

市は、国から発信される感染症危険情報をもとに、新型インフルエンザ等の発生状況や個人が取るべき対応に関する情報提供及び注意喚起を行う。また、市内事業者等に対し、国が行う渡航延期要請等についての情報提供を行う。

(5) 予防接種

ア 特定接種の実施

市は、国と連携して市職員の対象者に対して、本人の同意を得て基本的に集団的な接種により特定接種を行う³³。

※市は、具体的な接種の推進状況や、ワクチンの有効性・安全性に関する情報の連絡など、接種に必要な情報を提供する。

イ 住民接種の実施

市は、国の要請及び連携の下、全市民が速やかに接種できるよう集団的な接種を行うことを基本として、事前に市行動計画において進めた接種体制に基づき具体的な接種体制の構築の準備を行う。

(6) 医療

市は、地域の関係者と密接に連携を図り、保健所を中心とした二次医療圏を単位とした医療体制の整備推進に協力する。また、市は、国・県と連携し、区域内の医療機関が不足した場合、県が行う臨時医療機関の設置に協力し、医療を提供する。

(7) 市民生活及び市民経済の安定の確保

ア 事業者の対応

市は、国、県と連携し市内の事業者に対し、従業員の健康管理を徹底するとともに、職場における感染対策を実施するための準備を行うよう要請する。

イ 遺体の火葬・安置

市は、国、県の要請に基づき、火葬場の火葬能力の限界を超える事態が起こった場合に備え、一時的に遺体を安置できる施設等の確保の準備を行う。

³³ 特措法第 28 条

3 国内発生早期

(1) 想定状況等

<p>想定状況</p>	<ul style="list-style-type: none"> • 国内のいずれかの都道府県で新型インフルエンザ等の患者が発生しているが、全ての患者の接触歴を疫学調査で追うことができる状態。 • 国内でも、都道府県によって状況が異なる可能性がある。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>《県内未発生期》 県内で新型インフルエンザ等の患者が発生していない状態</p> </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>《県内発生早期》 県内で新型インフルエンザ等の患者が発生しているが、全ての患者の接触歴を疫学調査で追うことができる状態</p> </div> <p>※海外で確認後、日本国内そして県内に感染が拡大していくとは限らず、日本国内、県内で初めて新型インフルエンザ等が確認される可能性もある。</p>
<p>対策の目標</p>	<ol style="list-style-type: none"> 1) 感染拡大をできる限り抑える。 2) 患者に適切な医療を提供する。 3) 感染拡大に備えた体制の整備を行う。
<p>対策の考え方</p>	<ol style="list-style-type: none"> 1) 感染拡大を止めることは困難であるが、流行のピークを遅らせるため、基本的対処方針に基づき、感染対策等を行う。国内発生した新型インフルエンザ等の状況等により、「緊急事態宣言」がなされた場合、積極的な感染対策等をとる。 2) 医療体制や感染対策について周知し、個人がとるべき行動について十分な理解を得るため、市民への積極的な情報提供を行う。 3) 国内での患者数が少なく、症状や治療に関する臨床情報が限られている可能性が高いため、国、県から提供される国内外の情報を医療機関等に提供する。 4) 新型インフルエンザ等の患者以外にも、発熱・呼吸器症状を有する多数の者が医療機関を受診することが予想されるため、増大する医療需要への対応を行うとともに、医療機関での院内感染対策を実施する。 5) 国内感染期への移行に備えて、医療体制の確保、市民生活・地域経済の安定の確保のための準備等、感染拡大に備えた体制の整備を急ぐ。 6) 住民接種を早期に開始できるよう準備を急ぎ、体制が整った場合はできるだけ速やかに実施する。

(2) 実施体制

ア 市は、市内での発生が確認されたときは、緊急事態宣言がなされる前であっても、市対策本部を設置³⁴し、基本的対処方針、県の対策及び市行動計画に基づき新型インフルエンザ等対策を実施する。

³⁴ 特措法第36条

イ 【緊急事態宣言がなされた場合の措置】

緊急事態宣言がなされた場合、直ちに、市対策本部を設置し、基本的対処方針及び市行動計画に基づき新型インフルエンザ等対策を決定する。

(3) 情報収集・提供・共有

ア 情報収集

① 市は、引き続き、国、県等を通じて、海外及び国内での新型インフルエンザ等の発生状況、抗インフルエンザウイルス薬やワクチンの有用性・安全性等について、必要な情報を収集する。

② 市は、インフルエンザの感染拡大を早期に探知するため、通常行われている集団風邪（インフルエンザ様疾患）の発生報告（学級・学校閉鎖等）を徹底するよう学校関係者等の協力を求め、県へ報告する。

イ 情報提供

① 市は、市民に対して、引き続き、利用可能なあらゆる媒体・機関を活用し、市対策本部の広報担当を中心として、県内外の発生状況と具体的な対策等について、対策の決定プロセス、対策の理由、対策の実施主体などと詳細にわかりやすく、できる限りリアルタイムで情報提供する。

② 市は、特に、市民がとるべき行動を理解しやすいよう、新型インフルエンザ等には誰もが感染する可能性があることを伝え、個人レベルでの感染対策や、感染が疑われ、また患者となった場合の対応（受診の方法等）を周知する。また、関係機関と連携し、学校・保育施設等や職場での感染対策についての情報を適切に提供する。

③ 市は、市民から相談窓口寄せられる問い合わせ、関係機関等から寄せられる情報の内容も踏まえて、市民や関係機関がどのような情報を必要としているかを把握し、必要に応じ住民の不安に応じるための情報提供を行うとともにその後の情報提供に反映する。

④ 市は、情報が届きにくい高齢者、障がいのある人たちの要介護者や外国人に対して、それぞれの対象者ごとの特性に応じた内容、表現とすることに留意し、以下の対応により、確実に情報が行き届くように配慮する。
要介護者や一人暮らしの高齢者に対しては、地域包括支援センターや介護保険サービス事業所等の関係機関と連携した周知を行う。
障がいのある人に対しては、視覚障がい者向けの広報物の作成、障がい者団体及び障がい福祉サービス事業所を通じた周知を行う。
市在住の外国人に対しては、湖西国際交流協会等関係機関と連携し、外国語による広報等の作成、ホームページでの情報発信を行う。

ウ 情報共有

市は、国や県、関係機関等と対策の方針等をインターネット等に共有する。

(4) 予防・まん延防止

ア 市内でのまん延防止対策

市は、国及び県と相互に連携して、市内でのまん延防止対策のため業界団体等を経由し又は直接、市民、事業者等に対し県からの次の要請を周知する。

- ① 市民、事業所、福祉施設等に対し、マスク着用・咳エチケット・手洗い・うがい、人込みを避ける、時差出勤の実施等の基本的な感染対策等を推奨する。また、事務所に対し、当該感染症等の症状が認められた従業員の健康管理・受診の勧奨を要請する。
- ② 事業者に対し、職場における感染対策の徹底を要請する。
- ③ ウイルスの病原性等の状況を踏まえ、必要に応じて、学校・保育施設等における感染対策の実施に資する目安を示すとともに、学校保健安全法に基づく臨時休業（学校閉鎖・学級閉鎖・休校）を適切に行うように学校の設置者に要請する。
- ④ 公共交通機関等に対し、利用者へのマスク着用の励行の呼びかけなど適切な感染対策を講ずるよう要請する。

イ 市は、集会主催者、興行施設等の運営者に対し活動の自粛を要請する。

ウ 市は、国、県と連携し、関係機関に対し、病院、高齢者施設等の基礎疾患を有するものが集まる施設や、多数の者が、居住する施設等に対し、感染対策を強化するよう要請する。

(5) 予防接種

ア 特定接種の実施

市は、国と連携して市職員の対象者に対して、本人の同意を得て、基本的に集団的接種により特定接種を行う。

イ 住民接種の実施³⁵

市は、湖西市医会等の協力を得て、国が決定した市民への接種順位の基本的な考え方等に基づき、ワクチンの供給が可能になり次第、予防接種法第6条第3項に基づく新臨時接種を実施する。なお、接種の実施に当たっては国、県と連携して保健所・保健センター・学校などの公的な施設を活用するか、医療機関等に委託すること等により接種会場を確保し、原則として、市の区域に居住する者を対象に集団的接種を行う。

また、県へ接種に関する情報を提供するとともに、住民に対して情報提供を行う。

【緊急事態宣言がされている場合】

ウ 住民接種

市は、基本的対処方針の変更を踏まえ、特措法第46条の規定に基づき、予防接種法第6条第1項に規定する臨時の予防接種を実現する。

(6) 医療

市は、地域の関係者と密接に連携を図り、保健所を中心とした二次医療圏を単位とした医療体制の整備を推進する。

³⁵ 特定接種が終わらなければ、住民接種が開始できないというものではない。

(7) 市民生活及び市民経済の安定

ア 事業者への対応

市は、市内の事業者に対し、従業員の健康管理を徹底するとともに職場における感染対策を開始するよう要請する。

イ 市民・事業者への呼びかけ

市は、市民に対し、食料品、生活必需品の購入にあたっての消費者としての適切な行動を呼びかけるとともに、事業者に対しても、食料品、生活関連物資等の価格が高騰しないよう、また、買占め及び売り惜しみが生じないよう対応³⁶するよう呼びかける。

ウ 遺体の火葬・安置

市は、国、県の要請に基づき、引き続き、火葬場の火葬能力の限界を超え、事態が起こった場合に備え、一時的に遺体を安置できる施設等の確保ができるように準備を進める。

【緊急事態宣言がされている場合の措置】

エ 生活関連物資等の価格の安定等

市は、国、県と連携し市民生活及び市民経済の安定のために、物価の安定及び生活関連物資等の適切な供給を図る必要があることから、生活関連物資等の価格が高騰しないよう、また、買占め及び売惜しみが生じないよう、調査・監視をするとともに、必要に応じ、関係事業者団体等に対して供給の確保や便乗値上げの防止等の要請を行う。また、必要に応じ、市民からの相談窓口・情報収集窓口の充実を図る。

³⁶ 特措法第 55 条

4 国内感染期

(1) 想定状況等

<p>想定状況</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 国内のいずれかの都道府県で新型インフルエンザ等の患者の接触歴が疫学調査で追えなくなった状態 ・ 感染拡大からまん延、患者の減少に至る時期を含む。 ・ 国内でも、都道府県によって状況が異なる場合がある。 <table border="1" style="width: 100%;"> <tr> <td data-bbox="456 577 1415 663"> <p>《県内未発生期》 県内で新型インフルエンザ等の患者が発生していない状態</p> </td> </tr> <tr> <td data-bbox="456 667 1415 790"> <p>《県内発生早期》 県内で新型インフルエンザ等の患者が発生しているが、全ての患者の接触歴を疫学調査で追うことができる状態</p> </td> </tr> <tr> <td data-bbox="456 795 1415 918"> <p>《県内感染期》 県内で新型インフルエンザ等の患者の接触歴が疫学調査で追うことができなくなった状態（感染拡大からまん延、患者の減少に至る時期を含む）。</p> </td> </tr> </table>	<p>《県内未発生期》 県内で新型インフルエンザ等の患者が発生していない状態</p>	<p>《県内発生早期》 県内で新型インフルエンザ等の患者が発生しているが、全ての患者の接触歴を疫学調査で追うことができる状態</p>	<p>《県内感染期》 県内で新型インフルエンザ等の患者の接触歴が疫学調査で追うことができなくなった状態（感染拡大からまん延、患者の減少に至る時期を含む）。</p>
<p>《県内未発生期》 県内で新型インフルエンザ等の患者が発生していない状態</p>				
<p>《県内発生早期》 県内で新型インフルエンザ等の患者が発生しているが、全ての患者の接触歴を疫学調査で追うことができる状態</p>				
<p>《県内感染期》 県内で新型インフルエンザ等の患者の接触歴が疫学調査で追うことができなくなった状態（感染拡大からまん延、患者の減少に至る時期を含む）。</p>				
<p>対策の目標</p>	<ol style="list-style-type: none"> 1) 医療体制を維持する 2) 健康被害を最小限に抑える。 3) 市民生活及び市民経済への影響を最小限に抑える。 			
<p>対策の考え方</p>	<ol style="list-style-type: none"> 1) 感染拡大を止めることは困難であり、対策の主眼を、早期の積極的な感染拡大防止策から被害軽減に切り替える。 2) 地域ごとに発生の状況は異なり、実施すべき対策が異なることから、都道府県ごとに実施すべき対策の判断を行う。 3) 状況に応じた医療体制や感染対策、ワクチン接種、社会・経済活動の状況等について周知し、個人一人一人がとるべき行動について分かりやすく説明するため、積極的な情報提供を行う。 4) 流行のピーク時の入院患者や重症者の数をなるべく少なくして医療体制への負荷を軽減する。 5) 医療体制の維持に全力を尽くし、必要な患者が適切な医療を受けられるようにし健康被害を最小限にとどめる。 6) 欠勤者の増大が予測されるが、県民生活・地域経済の影響を最大限に抑えるため必要なライフライン等の事業活動を継続する。また、その他の社会活動をできる限り継続する。 7) 受診患者数を減少させ、入院患者数や重症者数を抑え、医療体制への負荷を軽減するため、住民接種を早期に開始できるよう準備を急ぎ、体制が整った場合は、できるだけ速やかに実施する。 8) 状況の進展に応じて、必要性の低下した対策の縮小・中止を図る。 			

(2) 実施体制

ア 基本的対処方針の変更

市は、基本的対処方針に基づき、新型インフルエンザ等対策を実施する。

イ 【緊急事態宣言がされている場合の措置】

- ① 緊急事態宣言がなされたときは、直ちに市対策本部を設置³⁷し、基本的対処方針、県の対策及び市行動計画に基づき新型インフルエンザ等対策を決定する。
- ② 市は、新型インフルエンザ等のまん延により緊急事態措置を行うことが出来なくなった場合においては、特措法の規定に基づく他の地方公共団体による代行、応援等の措置の活用を行う³⁸。

(3) 情報収集・提供・共有

ア 情報収集

- ① 市は、引き続き、国、県等を通じて、国内外の新型インフルエンザ等の発生状況や対策等に関する必要な情報を収集する。
- ② 市は、インフルエンザの感染拡大を早期に探知するため、通常行われている集団風邪（インフルエンザ様疾患）の発生報告（学級・学校閉鎖等）を徹底するよう学校関係者等の協力を求め、県へ報告する。

イ 情報提供

- ① 市は、引き続き市民に対し、利用可能なあらゆる媒体・機関を活用し、県内外の発生状況と具体的な対策等について、対策の決定プロセス、対策の理由、対策の実施主体を明らかにするとともに詳細にわかりやすく、できる限りリアルタイムで情報提供する。
- ② 市は、引き続き、特に市民がとるべき行動を理解しやすいよう、地域の流行状況に応じた医療体制を周知し、学校・保育施設等や職場での感染対策についての情報を適切に提供する。また、社会活動の状況についても、情報提供する。
- ③ 市は、引き続き、住民から相談窓口等に寄せられる問い合わせや関係機関等から寄せられる情報の内容も踏まえて、住民や関係機関がどのような情報を必要としているかを把握し、次の情報提供に反映する。

³⁷ 特措法第 36 条

³⁸ 特措法第 38 条第 1 項、第 39 条第 2 項、第 40 条、第 41 条

ウ 情報共有

市は、国や県、関係機関等対策の方針をインターネット等により共有する。

エ 相談窓口等の接続

市は、国が作成した、状況の変化に応じたQ&Aの改訂版を活用し、国の要請を受け、市の相談窓口等を継続する。

(4) 予防・まん延防止

ア 市内のまん延防止対策

① 市は、国、県と連携して、業界団体等を經由し、または直接、市民、事業者等に対して県の出す次の要請を周知する。

- ・市民、事業所、福祉施設等に対し、マスク着用・咳エチケット・手洗い・うがい、人込みを避ける、時差出勤等の基本的な感染対策等を強く勧奨する。また、事業所に対し、当該感染症の症状の認められた従業員の健康管理・受診の勧奨を要請する。
- ・事業者に対し、職場における感染対策の徹底を要請する。
- ・ウイルスの病原性等の状況を踏まえ、必要に応じて、学校・保育施設等における感染対策の実施に資する目安を示すとともに、学校保健安全法に基づく臨時休業³⁹（学級閉鎖・学年閉鎖・休校）を適切に行うよう学校施設者に要請する。
- ・公共交通機関等に対し、利用者へのマスク着用の励行の呼びかけなど適切な感染対策を講ずるよう要請する。

② 国の要請を受け、市に関連した施設において県が行う、病院、高齢者施設等の基礎疾患を有する者が集まる施設や、多数の者が居住する施設等に対する、感染対策の強化を共に行う。

³⁹ 感染が拡大にするにつれて感染拡大防止の効果は低下することから、状況に応じて対策を緩和することも考えられる。

(5) 予防接種

ア 特定接種の実施

市は、国と連携して、職員の対象者に対して、本人の同意を得て、基本的に集団的な接種により行う特定接種を進める。

イ 住民接種の実施

市は、国及び県と連携して、予防接種法第6条第3項に基づき新臨時接種を進める。

【緊急事態宣言がされている場合】

ウ 臨時の予防接種

市は、住民接種について、基本的対処方針の変更を踏まえ、特措法第46条の規定に基づき、予防接種法第6条第1項に規定する臨時の予防接種を実施する。

(6) 医療

市は、国及び県と連携し、関係団体の協力を得ながら、患者や医療機関等から要請があった場合には、在宅で療養する患者への支援（見回り、食事の提供、医療機関への移送）や自宅で死亡した患者への対応を行う。

(7) 市民生活及び市民経済の安定の確保

ア 事業者への対応

市は、市内の事業者に対し、従業員の健康管理を徹底するとともに職場における感染対策を講じるよう要請する。

イ 市民・事業者への呼びかけ

市は、市民に対し、食料品、生活必需品の購入にあたっての消費者として適切な行動を呼びかけるとともに、事業者に対しても、食料品、生活関連物資等の価格が高騰しないよう、また、買占め及び売り惜しみが生じないように要請⁴⁰する。

ウ 経済対策

市は、新型インフルエンザ等のまん延により、経営に影響を受けた中小企業の事業および農林水産事業者を支援するため、経営相談窓口を設置するとともに、中小企業事業者に対しては緊急融資の実施について検討する。

エ 遺体の火葬・安置

市は、国からの要請に基づき、火葬場の火葬能力の限界を超える事態が起こった場合に備え、一時的に遺体を安置できる施設等の確保ができるよう準備を行う。

⁴⁰ 特措法第55条

【緊急事態宣言がされている場合】

オ 生活関連物資等に価格の安定化

市は、国、県と連携し市民生活及び市民経済の安定のために、物価安定及び生活関連物資等の適切な供給を図る必要があることから、生活関連物資等の価格が高騰しないよう、調査・監視するとともに、必要に応じ関係事業団体等に対して供給の確保や便乗値上げの防止等の要請を行う⁴¹。また、必要に応じ、住民からの相談窓口・情報収集窓口の充実を図る。

市は、生活関連物資等の価格の高騰もしくは供給不足が生じ、または生ずるおそれがあるときは、適切な措置を講ずる。

カ サービス水準に係る市民への呼びかけ

キ 要援護者への生活支援

ク 埋葬・火葬の特例等⁴²

○ 市は、国の要請に基づき可能な限り火葬炉を稼働させる。

○ 市は、国の要請に基づき死亡者が増加し、火葬能力の限界を超えることが明らかになった場合には、一時的に遺体を安置する施設等を直ちに確保する。

○ 市は、新型インフルエンザ等緊急事態において、埋葬または火葬を円滑に行うことが困難であり、緊急の必要があると判断したときは、他の市町村長による埋葬または火葬の許可等の手続きについて国の定める特例に基づき広域火葬を実施する。

ケ 水の安定供給

水道事業者である市は、行動計画または業務計画の定めるところにより、消毒その他衛生上の措置等新型インフルエンザ等緊急事態において水を安定的かつ適切に供給するために必要な措置を講ずる。

⁴¹ 特措法第 59 条

⁴² 特措法第 56 条

5 小康期

(1) 想定状況等

想定状況	<ul style="list-style-type: none">・新型インフルエンザ等患者の発生が減少し、低い水準でとどまっている状態。・大流行はいったん終息している状況。 ※今後、流行が再燃（流行の次波が再来）する可能性と、結果的にそのまま流行が終息する可能性がある。・国は、緊急事態措置の必要がなくなった場合は、新型インフルエンザ等緊急事態解除宣言（新型インフルエンザ等緊急事態が終了した旨の公示）⁴³を行う。
対策の目標	1) 県民生活・地域経済の回復を図り、流行の第二波に備える。
対策の考え方	<ol style="list-style-type: none">1) 第二波の流行に備えるため、第一波に関する対策の評価を行うとともに、資器材、医薬品の調達等、第一波による医療体制及び社会・経済活動への影響から早急に回復を図る。2) 第一波の終息及び第二波の発生の可能性やそれに備える必要性について県民に情報提供する。3) 情報収集の継続により、第二波の発生の早期探知に努める。4) 第二波の流行による影響を軽減するため、住民接種を進める。

(2) 実施体制

ア 基本的対処方針の変更に基づき、市の新型インフルエンザ等対策の縮小・中止を行う。

イ 市は、これまでの各段階における対策に関する評価を行い、必要に応じ、行動計画、マニュアル等の見直しを行う。

ウ 市は、新型インフルエンザ等緊急事態解除宣言⁴⁴がされたときは、遅滞なく市対策本部を廃止する。

(3) 情報収集・提供・共有

ア 情報収集

本市は、インフルエンザの感染拡大を早期に探知するため、学校等におけるインフルエンザ様症状による欠席者の状況（学級・学校閉鎖等）を調査し、県へ報告する。

⁴³ 特措法第32条第5項、小康期に限らず、新型インフルエンザ等緊急事態措置を実施する必要がなくなったと認めるときは、新型インフルエンザ等緊急事態解除宣言を行う。

⁴⁴ 特措法第32条第5項

イ 情報提供

- ① 市は、引き続き、市民に対し、利用可能なあらゆる媒体・機関を活用し第一波の終息と第二波発生の可能性やそれに備える必要性を情報提供する。
- ② 市は、市民から相談窓口等に寄せられた問い合わせ等を取りまとめ、情報提供の在り方を評価し、見直しを行う。

ウ 情報共有

市は、国、県関係機関等とのインターネット等を活用した情報共有を行う問合せ窓口の体制を維持し、第二波に備えた体制の再整備を図る。

エ 相談窓口等の体制の縮小

市は、国、県からの要請を踏まえ、状況を見ながら、相談窓口等の体制を縮小する。

(4) 予防・まん延防止

市は、国、県と連携して、市民、事業者に出された外出、集会の自粛の解除、活動自粛の解除、学校や通所施設の縮小した業務の再開を促す。

(5) 予防接種

ア 住民接種の実施

市は、流行の第二波に備え、予防接種法第6条3項に基づく新臨時接種を進める。

【緊急事態宣言がされている場合の措置】

イ 住民接種

市は、国、県と連携し、流行の第二波に備え、特措法第46条の規定に基づき予防接種法第6条第1項に規定する臨時の予防接種を進める。

(6) 医療

市は、県と連携し、新型インフルエンザ等発生前の通常の状態に戻る。

(7) 市民生活及び市民経済の安定の確保

市は、県と連携し、新型インフルエンザ等発生前の通常の状態に戻る。

【緊急事態宣言がされている場合の措置】

緊急事態措置の縮小・中止

市は、国、県、指定（地方）公共機関と連携し、国内の状況等を踏まえ、緊急事態措置の合理性が認められなくなった場合は、緊急事態措置を縮小・中止する。